



## 高齢者疑似体験・車椅子体験

27日(木)は、4年生が総合的な学習の時間の中で、「ささえりあ帯山(熊本市高齢者支援センター)」から講師を招き、高齢者疑似体験と車いす体験をしました。高齢者疑似体験では、高齢者疑似体験セットを付けることで、手足を上げたり曲げたりしにくくなり、目も白内障のようにかすみ、見えにくくなるそうです。こうした身体機能の低下を体感し、高齢者の心理状態を想像することで、高齢者を理解し、高齢者の気持ちを汲み取るための一助となると思います。

また、車いす体験では、車イスを利用している人がどのような不便さ、不安感を味わっているかを具体的に体験しました。体験によって、車イス利用者の気持ちを察することができるようになったり、介助者の役割を理解することができるようになったりすると思います。さらには、このような体験がきっかけで、バリアフリーの環境づくりにも目を向けることができるようになることを期待しています。そうして、街の中に存在する「バリア」を具体的に理解する子供たちになって欲しいと思います。以下は子供たちの感想です。

- 車いす体験では、押す人が「上がりますよ。」「下がりますよ。」と言わないと車いすに乗っている人がびっくりするので、声掛けが大切だとわかりました。もし私が車いすを動かすとなったらその人に優しく声をかけて、気持ちがわかるようにしたいです。
- 高齢者疑似体験では、いつもの生活が聞こえづらく見えづらくなるので、困っている人がいたら「大丈夫ですか?」「困りごとはありませんか?」「そこは危ないですよ。」と伝えていきたいです。
- お年寄りの体験では、膝も腕も痛いし、ぼんやりとしか見えないので、びっくりしました。座るのも立つのも一苦勞でした。勉強するだけではなく、実際に体験するとお年寄りや障害がある人の気持ちがもっとわかってきました。



## 令和5年度新入児就学時健診

本日28日(金)は、就学時健診が行われました。次年度の入学予定の子供たちの心身の様子を把握して、いいスタートを切ることができるようにするために行います。今のところ3学級の編成ができそうですが、今後転出や受験等で子供の数が減少するかもしれません。今の1年生も2学級で、あと数人いれば3学級になります。知り合いなど転居先を探している方がいれば、是非「みんなが『わくわく』し、子供たちが帯西レンジャーと共に活躍する」本校をお薦めしてください。

本来ならば、5年生が次年度入学予定の子供たちのお世話をするところですが、コロナ禍でそれが叶いませんでした。しかし、会場設営、ウェルカムビデオ作成などたくさん頑張ってくれました。次年度への心構えが高まった5年生の姿がありました。